

県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 24 年 12 月

テーマ 県民交流広場事業に取り組んで

寄稿者 伊丹市稲野小学校区地区社会福祉協議会

大阪国際空港で知られる伊丹市のほぼ中央部に位置する稲野小学校地区は、5, 325世帯15自治会からなっています。人口12, 811人のうち高齢者2, 699人、高齢化率は21%と市の平均を上まわり大きな地域課題のひとつとなっています。

平成14年に地域の福祉課題の共有と解決に向けて『稲小地区ネット会議』が発足されました。「本当の福祉ニーズとは何だろう？」という議論をもとにアンケート調査を実施。アンケートの結果、ゴミ出しや電球交換など、高齢者や障がい者の日常生活における『お困り事』が浮かびあがってきました。そこで「地域住民の『お困り事』を地域住民同士で助け合う仕組みが必要ではないか」と平成17年に「稲小地区助けあいセンター」が開所されました。その後、県民交流広場事業で平成19年4月、住民の憩いの場・助け合いの拠点として「稲小地区助けあいセンター新拠点」が設立。活動内容もさらに拡充しました。

同センターは地域ボランティアの力で運営されています。登録ボランティアは59名。窓口は月曜から土曜の9時～17時まで開けており、助け合いを一層進めるために相談受付およびコーディネートを実施しています。年に2～3回はボランティア同士の交流やスキルアップを目的とした研修会も行い『お困り事』にも、より迅速に対応できるようになりました。1階交流スペースは地域住民が気軽に集える場として無料開放し、ふれあいサロンや子育て広場のほか、民謡、カラオケ、銭太鼓、各種会合などに活用され、子どもから高齢者まで自然にかかわり合える場となっています。

現在はすでに県民交流広場の助成期間は終了しており新たな課題が発生しています。特に財源については、助成金の活用、イベント時のバザー収益、自動販売機の設置など様々な取り組みを試みてはいますが、どれも永続的な財源ではないので「資金の恒常化」が目標です。

また『稲小地区助けあいセンター』の周知活動、『登録ボランティア』の活動の場の拡大、若年層や退職後の方々の地域活動への参加促進などにも力を注いでいきたいと考えており、ボランティア活動が特別なものにならないよう「無理をしない、頑張らない、仕事や趣味を犠牲にせず、楽しんで活動すること」をモットーに取り組んでいきたいと思っています。